

ちょっと  
気になる?!

# 野菜の豆知識

葉菜編



タキイ茨城研究農場  
きたよしろう  
北吉郎

Q 夏まきキャベツのタネを秋にまいたらどうなりますか？

このページでは、野菜栽培をするうえで、よくある疑問にタキイのブリーダーがお答えします。

ご存じの通り夏まきのキャベツは通常通りの作型であれば秋に収穫を迎えます。育苗、定植直後を厳しい暑さの中で過ごし、下降気温の中で肥大する力が必要になります。そのため私たちブリーダーは、生育初期に暑さに強く、生育後半は気温が下がる中で肥大する馬力をもつように品種を育成しております。

一方で、秋にまくキャベツは定植後に厳寒期を乗り越え、春先に収穫期を迎えます。仮に夏まき品種を秋まきの作型でまいてしまうと、暑さには強いが寒さには弱いいため、冬を乗り越えられずに不結球や生育不良が多発します。

また、キャベツは一定以上の大きさで低温に当たると花芽分化してしまうため、冬を乗り切る秋まき作型の品種は抽苔が起りにくいように育成されております。夏まき品種にはその特性がないため、仮に冬を乗り越えても春に花芽ができてキャベツが収穫できない可能性があります。その品種に適した作型を見誤らないように、作型表をよく確認して品種をお選びください。

## 夏まき秋冬どりと秋まき春～初夏どりの作型



「彩音」

地域	月	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
中間地	秋冬どり		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	春～初夏どり													

● 播種 ○ 育苗 × 定植 — 生育 ■ 収穫



「春のかほりSP」

夏まき、秋～冬収穫の作型で多く見られる「寒玉系」の品種は葉の凸凹が少なく、ややへん円の玉になり、葉の巻きがかたい。シャキシャキとした食感が特徴で、生食のほか、煮物やお好み焼きの素材として利用される。「彩音」「秋徳SP」ほか

秋まき、春～初夏収穫の作型で多く見られる「良質系」の品種は葉に凹凸があり、葉色の緑が鮮やかで光沢がある。葉の巻きがゆるく、みずみずしくてやわらかくおいしい。「春のかほりSP」「春ひかり7号」ほか



Q ハクサイの結球に必要な葉数を確保するためには、どこに気をつければよいですか？

- ハクサイの栽培でよくある失敗、不結球は葉枚数が不足することが原因です。今回は発生頻度の多い冬の作型に絞ってその原因と対策をご紹介します。
- ハクサイは一般的に播種後、12℃以下の低温に一定期間以上遭遇すると花芽分化し、葉枚数の増加が停止します。そのため気温が低下する前に結球に必要な葉枚数を確保する必要があり、注意点は4つあります。
- ① **播種定植期**…不結球の多くの原因が播種遅れです。中間地では播種限界9月上旬、定植限界9月下旬～10月上旬、暖地では播種限界9月中下旬、定植限界10月上旬を守ってください。
  - ② **灌水管理**…定植後から活着するまで適湿を保ち、初期の根張りを確保してください。また生育が旺盛になる芯葉の立ち上がりから結球初期のタイミングまでに、7～10日間十分な降雨がない場合は適宜灌水を行い、順調な生育を促してください。
  - ③ **害虫対策**…コナガ、ハイマダラノメイガなどの害虫に芯葉が食害されると葉枚数が増加しなくなるため育苗、初期生育時に浸透移行性の農薬やネットによる被覆で防虫対策を行ってください。
  - ④ **品種選択**…選定する品種は晩抽性、低温肥大性が重要になります。晩抽性にすぐれる「晴黄90」や低温肥大性にすぐれる「さらばし90」がおすすめです。



タキイ研究農場  
おおがみ たかゆき  
大上 貴之



タキイ 研究農場  
かんだ けいたろう  
神田 啓太郎

Q ブロccoliには「頂花蕾側枝兼用種」と「頂花蕾専用種」がありますが、どのように異なるのでしょうか？

ブロッコリーには1度花蕾を収穫したら終わる「頂花蕾専用種」(「トップギア」「グリーンパラスル」ほか)と、花蕾を収穫した後に追肥や灌水などの管理を施し、生長させたわき芽を収穫する「頂花蕾側枝兼用種」(「ジャスター」「ハイツSP」)、「グリーンビューティ」「エンデバーSP」(ほか)があります。実際の産地では頂花蕾専用種中心に栽培されていますが、家庭菜園や小規模菜園では面積あたりの収穫量を上げるために、頂花蕾側枝兼用種を栽培するのもおすすめです。

側花蕾の収穫が夏になってしまおうと生育に適した気温でなくなってしまうので、まず頂花蕾を4月ごろまでに収穫できるような作型を設定します。頂花蕾の収穫の際は株に残った葉を傷めないように注意します。草勢を維持するため肥料切れを起こさないように側花蕾が見え始めたら追肥を施し、マルチ栽培でない場合は追肥とともに土寄せをすると根の伸長を促すことができます。側花蕾は頂花蕾と比べてやや小ぶりになりやすいため、直売所では2つセットで袋詰めして販売するとういでしょう。

### 頂花蕾側枝兼用種の収穫

#### 頂花蕾の収穫

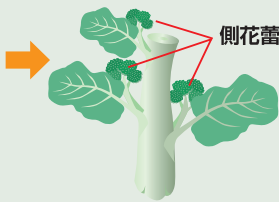
収穫



切る

#### 側花蕾の収穫

側花蕾は頂花蕾収穫後に順次生育します。



側花蕾



収穫期の頂花蕾。

頂花蕾収穫後、3回目の追肥(2回目の追肥と同様)を施す。



側花蕾も順次収穫する。「ハイツSP」「エンデバーSP」など側花蕾どりもできる品種が家庭菜園に向く。

### ハクサイの生育

中晩生種の例

生育適温 15~20℃

害虫に対する薬剤散布を定期的に行う

結球適温 15~16℃

芯葉の立ち上がる時期が追肥と予防殺菌剤を散布するポイント

生育のバランスがくずれると生理障害が発生しやすいので注意

発芽適温は20~25℃

外葉が大きく育つほど大きい球になる

手で頭をおさえてかたくしまったものを収穫



↑「晴黄90」



↑「きらぼし90」

冬どりハクサイで失敗しないためには品種選びも大切です。タキイでは晩抽性にすぐれる「晴黄90」や低温肥大性にすぐれる「きらぼし90」がおすすめ。